

平成30年度 前期選抜の選抜・評価方法

学校番号 6

千葉県立千葉工業高等学校 全日制の課程 電子機械科・電気科
情報技術科・工業化学科

1 期待する生徒像

本校の教育方針を理解し、将来工業技術者として活躍する意欲と能力のある生徒で、本校又は各学科を志望する動機及び目的が適切な者 又は、スポーツ活動、文化活動、ボランティア活動、生徒会活動等で実績や素質を有し、本校入学後も意欲的に活動する意志のある者

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 自己表現	次のア、イのいずれかを、出願時に志願者が選択する。 ア 口頭による自己表現 日本語による自己表現（3分）を行い、その後質疑応答を行う。 実施形態：個人で発表 検査時間：5分 イ 実技による自己表現 それぞれの部活動に関する基本的な実技を行い、その後質疑応答を行う。 次の部活動実技のうち、入部したい部活動1つを選択 男子のみ：バレーボール・野球・サッカー・ラグビー 男子・女子：陸上・体操・吹奏楽 実施形態：個人で発表（ただし、団体種目は、複数人数で実施） 検査時間：個人種目 1人5分程度、団体種目 20～30分 質疑応答 1人2～3分

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査 [500点満点]

評価項目	評価基準
ア 5教科の得点合計	5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。
イ 個々の教科の得点	各教科の得点のうち15点以下がある場合は、審議の対象とする。

(2) 調査書 アの数値に、ウ～オについて加点（上限65点）したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。
イ 総合的な学習の時間の記録	記載された内容について、総合的に判定する際の参考とする。
ウ 出欠の記録	出欠の記録について加点する。3年間の欠席日数の合計が30日以上ある場合、審議の対象とする。
エ 行動の記録	行動の記録について加点する。○の数が、0または1の場合、審議の対象とする。
オ 特別活動の記録、部活動の記録・特記事項	学級活動、生徒会活動、学校行事における実績、部活動、その他の活動における実績について加点する。
カ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合には、総合的に判定する際の参考とする。

(3) 自己表現 [150点満点]

3名の評価者が、次の5つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a (特に優れている)、b (優れている)、c (標準)、d (やや問題がある)、e (問題がある) の5段階で評価し、3名の評価者の評価の組合せ (a a a ~ e e e) ごとに得点化する。
評価eが2つ以上ある場合は、審議の対象とする。

ア 口頭による自己表現

評価項目	評価基準
(ア) 内容	中学校で取り組んだこと、本校を志願する理由や、取り組みたいこと、将来の夢などの発表内容が明確である。
(イ) 表現力	内容を明確に伝えている。
(ウ) 意欲	意欲をもって取り組む姿勢が見られる。
(エ) 話し方	明瞭かつ正しい言葉遣いで話している。
(オ) 身だしなみ・態度	身だしなみや基本的作法・礼儀ができています。

イ 実技による自己表現

評価項目	評価基準
(ア) 基礎能力	基礎的な能力を身に付けている。
(イ) 専門技術	専門的な技術を身に付けている。
(ウ) 意欲	意欲をもって取り組む姿勢が見られる。
(エ) 将来性	入学後の活躍が期待できる。
(オ) 身だしなみ・態度	身だしなみや基本的作法・礼儀ができています。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

「学力検査の成績」、「調査書の得点」、「第2日の検査（自己表現）の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、各選抜資料の評価等について慎重に審議しながら、予定人員まで入学許可候補者として内定する。

<総得点の満点の内訳>

学力検査の成績	調査書の得点		第2日の検査の得点	総得点
	評定（算式1）	加点	自己表現	
500点	(135点 + α - m) 点	65点	150点	(850 + α - m) 点

(算式1) α : 県が定める評定合計の標準値95
m : 当該志願者の在籍する中学校の第3学年（義務教育学校にあっては、後期課程の第3学年）の評定の全学年の合計値の平均値

(2) その他

自己申告書が提出された場合には選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはない。

5 その他

過年度卒業者については、第1日の検査終了後、別途個人面接を行う。

平成30年度 前期選抜の選抜・評価方法

学校番号 6

千葉県立千葉工業高等学校 全日制の課程 理数工学科

1 期待する生徒像

本校の教育方針を理解し、将来工業技術者として活躍する意欲と能力のある生徒で、本校を志望する動機及び目的が適切な者 本校入学後、理工系大学等への進学を目指し、工学の基礎とそれを支える科学技術を学び、意欲的に学習に取り組む意志のある者

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 自己表現	口頭による自己表現 日本語による自己表現(3分)を行い、その後質疑応答を行う。 実施形態：個人で発表 検査時間：5分

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査 [500点満点]

評価項目	評価基準
ア 5教科の得点合計	5教科(各教科100点満点)の合計500点満点で評価する。
イ 個々の教科の得点	各教科の得点のうち15点以下がある場合は、審議の対象とする。

(2) 調査書 アの数値に、ウ～オについて加点(上限65点)したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。
イ 総合的な学習の時間の記録	記載された内容について、総合的に判定する際の参考とする。
ウ 出欠の記録	出欠の記録について加点する。3年間の欠席日数の合計が30日以上ある場合、審議の対象とする。
エ 行動の記録	行動の記録について加点する。○の数が、0または1の場合、審議の対象とする。
オ 特別活動の記録、部活動の記録・特記事項	学級活動、生徒会活動、学校行事における実績、部活動、その他の活動における実績について加点する。
カ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合には、総合的に判定する際の参考とする。

(3) 自己表現 [150点満点]

3名の評価者が、次の5つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a(特に優れている)、b(優れている)、c(標準)、d(やや問題がある)、e(問題がある)の5段階で評価し、3名の評価者の評価の組合せ(aaa~eee)ごとに得点化する。
評価eが2つ以上ある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
(ア) 内容	中学校で取り組んだこと、本校を志願する理由や、取り組みたいこと、将来の夢などの発表内容が明確である。
(イ) 表現力	内容を明確に伝えている。
(ウ) 意欲	意欲をもって取り組む姿勢が見られる。
(エ) 話し方	明瞭かつ正しい言葉遣いで話している。
(オ) 身だしなみ・態度	身だしなみや基本的作法・礼儀ができています。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

「学力検査の成績」、「調査書の得点」、「第2日の検査（自己表現）の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、各選抜資料の評価等について慎重に審議しながら、予定人員まで入学許可候補者として内定する。

<総得点の満点の内訳>

学力検査 の成績	調査書の得点		第2日の検査の得点	総得点
	評定（算式1）	加点	自己表現	
500点	(135点+ α -m)点	65点	150点	(850+ α -m)点

(算式1) α : 県が定める評定合計の標準値95

m : 当該志願者の在籍する中学校の第3学年（義務教育学校にあつては、後期課程の第3学年）の評定の全学年の合計値の平均値

(2) その他

自己申告書が提出された場合には選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはしない。

5 その他

過年度卒業者については、第1日の検査終了後、別途個人面接を行う。